

新刊ニュース

「**Orgue et Liturgie**」のシリーズの紹介の続きです。

先月は典礼のテーマごとのアンソロジーの巻をご紹介しましたが、一人の作曲家による巻を2冊購入しました。

***42 巻 : Litaize, Gaston (1909–1991) : Messe basse pour les temps**

リテーズのオルガンミサはすでに同じシリーズの29巻にもあります。タイトルの通り、年間を通していつでも使えるものでミサ固有文を扱っています。リテーズは生まれながらの盲人でしたが、パリ・コンセルヴァトワールでオルガンと即興演奏でプルミエ・プリーを取ります。またカンタータ「フラ・アンジェリコ」でローマ大賞を受賞しています。

***47 巻 : Bermudo, Juan(c1510-c1563): Oevres d'orgue publiees d'apres la Declaracion de instrumentos musicales**

ファン・ベルムードのオルガン作品は “El libro llamado declaracion de instrumentos musicales” という音楽理論書のなかに所収され、最初期の器楽曲として器楽音楽史上、重要なものです。声楽曲の器楽編曲ではなく純粋器楽の作品として現代も出版譜がいくつかあります。

彼はスペインのアンダルシア管区でオプセルヴァント派のフランシスコ会に入会。すぐれた説教者、証聖者でもありました。ポリフォニー音楽を推奨しないオプセルヴァント派にあって音楽に献身。その後修道会の音楽軽視の方向から彼は音楽の勉強を控えますが、深刻な病気に見舞われ、そこから回復した後は精力的に音楽に取り組み、「教会と修道会のために」という使命感に燃えて目覚しい出版活動を行います。このたび購入しましたのは1555年出版の作品で、グレゴリオ聖歌のイムヌスに基づくオルガン奏楽曲ですが、特徴的なのはスペイン固有聖歌（グレゴリオ聖歌とは異なる旋律）、スペイン固有のリズムが定旋律になっているということです。この時代に復興したスペイン古聖歌（いわゆるトレド・イムヌス）とスペインの器楽音楽は切り離せません。トレド聖歌集の楽譜も当資料室に所蔵していますのでいずれまたご紹介したいと思います。

杉本ゆり記